

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：永島]
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

平成18年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号

平成18年12月1日

島根県

トマトすすかび病の本県での初発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】

平成18年9月、奥出雲町、吉賀町の施設栽培の葉かび病抵抗性品種トマト、ミニトマトにおいて、葉に葉かび病に非常に似ている症状が認められました（図1、2）。そこで、島根県農業技術センター資源環境研究部病虫グループにおいて診断した結果、*Pseudocercospora fuligena*(Roldan) Deightonと同定し、トマトすすかび病と診断しました。

その後、県内の施設栽培トマト、ミニトマトを調査した結果、松江市、出雲市、雲南市、益田市、飯南町、美郷町及び邑南町でも確認され、県内の広範囲で発生していることがわかりました（表）。

本病は、宮崎県、徳島県、京都府、岐阜県、愛知県、茨城県、千葉県及び鳥取県で発生が確認されています。

- 1 病害虫名 トマトすすかび病
- 2 病原名 *Pseudocercospora fuligena*(Roldan) Deighton
- 3 作物名 トマト、ミニトマト
- 4 発生場所 県内全域
- 5 発生生態

1) 病徴

葉が侵される。初め葉の裏側に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色粉状のかびを生ずる。病斑はしだいに拡大して、病勢の進展と共に、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり、灰褐色から黒褐色に変わる。葉の表面には、裏面よりやや遅れて、不明瞭な淡黄褐色の病斑を生ずるが、裏面に比べて少ない。

葉かび病に酷似しており、肉眼での判別は困難であるが、分生子を顕微鏡下で観察すれば、細長い形状から葉かび病とは容易に判別できる（図3、4）。

2) 伝染経路

被害植物の残渣で越年し、翌年の伝染源となる。多湿条件で発病しやすく密植、過繁茂、換気不十分の施設栽培で発病しやすい。

6 防除対策

- 1) 多湿条件で発病しやすいため、密植、過繁茂を避け、施設内の換気を行う。
- 2) 発病葉、被害残渣は施設外に持ち出し、土中深く埋めるなど適切に処分する。

7 その他

疑わしい症状が発生している場合は、病害虫防除所（0853-22-6772）に連絡する。



図 1. 葉表の病斑
(左：すすかび病、右：葉かび病)



図 2. 葉裏の菌叢
(左：すすかび病、右：葉かび病)



図 3.すすかび病菌（分生子）

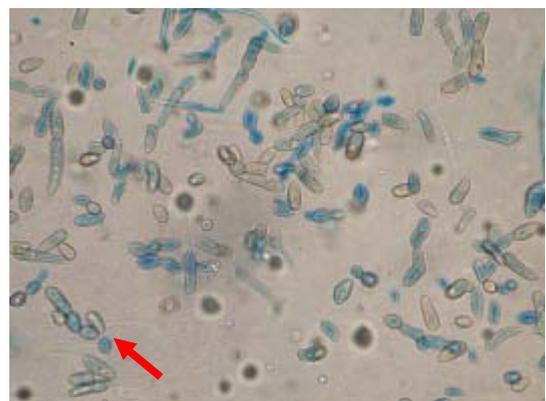


図 4. 葉かび病菌（分生子）

表. 県内のトマト栽培施設における葉かび病、すすかび病発生状況

市町村	調査施設	作物	調査葉数	葉かび病発生葉率(%)	すすかび病発生葉率(%)	葉かび病*抵抗性品種
松江市	1	トマト	10	100.0	0.0	×
	2	トマト	12	8.3	91.7	○
	3	トマト	16	93.8	6.3	×
	4	トマト	6	0.0	100.0	?
出雲市		トマト	8	75.0	25.0	×
		トマト	14	92.9	7.1	○
	5	トマト	2	0.0	100.0	○
		トマト	4	75.0	25.0	×
		トマト	10	70.0	30.0	○
雲南市		トマト	11	72.7	27.3	×
	6	トマト	10	100.0	0.0	×
益田市	7	トマト	10	0.0	0.0	×
	8	トマト	7	71.4	28.6	×
	9	トマト	12	100.0	0.0	×
	10	トマト	10	0.0	0.0	×
	11	トマト	10	0.0	0.0	×
奥出雲町	12	トマト	10	0.0	100.0	○
	13	ミニトマト	8	100.0	0.0	×
飯南町	14	トマト	12	0.0	100.0	○
	15	トマト	10	100.0	0.0	×
美郷町	16	トマト	10	0.0	0.0	○
	17	トマト	2	0.0	100.0	○
邑南町	18	トマト	5	60.0	40.0	○
	19	ミニトマト	4	100.0	0.0	×
	20	トマト	11	54.5	45.5	○
吉賀町	21	ミニトマト	15	0.0	100.0	○
	22	ミニトマト	13	100.0	0.0	×
	23	ミニトマト	9	0.0	100.0	○

*: ○:葉かび病抵抗性品種、×:葉かび病罹病性品種、?:品種不明